

令和8年度第1回木更津市観光振興計画推進委員会 会議録

1. 開催日時 令和8年5月15日（金）午前10時00分から午前11時40分

2. 開催場所 木更津市役所駅前庁舎 防災室・会議室

3. 出席者（敬称略）

【推進委員会委員】

五十嵐 潤子、葛 丈夫、満間 信樹、沼野 丈幸、阿部 厚司、田上 重光

【木更津市】

大岩経済部長、鶴岡経済部次長、清水観光振興課長、渡邊主幹、河名係長、近藤係長、長谷川主任主事、宮崎主事

4. 傍聴人の数 0人

5. 会議の内容

(1) 開会

○事務局（清水課長）

本日は、お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。

本日、進行を務めさせていただきます、経済部観光振興課長の清水でございます。

よろしく願いいたします。

まず始めに、お手元の資料の確認をさせていただきます。

①令和8年度第1回木更津市観光振興計画推進委員会 次第

②委員名簿

③観光振興計画抜粋資料

④第3次木更津市観光振興計画施策推進シート

を配布させていただいておりますが、資料の不足はございませんでしょうか。

それでは議題に入る前に、事務局から2点ご連絡いたします。

1点目、本会議につきましては、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条に基づき、公開することとなっております。

本日の傍聴人はおりません。

2点目、会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、予めご了承ください。

なお、ご発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し、ライトが点灯しましたらご発言いただき、発言後はもう一度ボタンを押して、マイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、文字起こしを自動で行うマイクシステムを導入しておりますことから、恐れ入りますが、ご発言の前にお名前を仰ってくださいようお願い申し上げます。

それでは、只今より、第1回木更津市観光振興計画推進委員会を開催いたします。

初めに、五十嵐委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

五十嵐委員長よろしくお願いいたします。

(2) 委員長あいさつ

○五十嵐委員長

本日はお忙しい中、令和8年度第1回木更津市観光振興計画推進委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日は、昨年度よりスタートいたしました本計画について、初めての振り返りを行う大変貴重な機会であると伺っております。

近年、木更津のイメージも大きく変化してきており、SNS等におきましては「都心から近いにもかかわらず、気軽に非日常を味わえるエリア」として注目を集めるなど、新たな魅力が広がりつつあるように感じております。

こうした流れの中で、今後の観光振興への期待がますます高まっているところでございます。

委員の皆様におかれましては、それぞれのご専門や現場でのお立場、ご実感を踏まえ、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

(3) 議題

1) 第3次木更津市観光振興計画の振り返り及び事業計画

○事務局

お手元の資料「第3次木更津市観光振興計画 抜粋資料」A3サイズの計画体系図をご覧ください。

本計画では、コンセプトで示した方向性を、具体の分野として施策に整理し、さらに実行段階として、各課が担う取組を位置づけており、これらの取組を管理・推進するため、施策推進シートを作成しております。

これからご説明する施策推進シートの内容は、一つ一つの取組で完結するものではなく、施策全体を推進するための要素として整理したものです。

資料のページが戻りまして、1ページ下段にあります目標値(KGI)をご覧ください。

施策推進シートにより前年度の取組を振り返るとともに、次年度につなげていくことで、本計画の最終年度、令和11年度の目標値(KGI)の達成を目指しております。

なお、令和7年度末時点のKGIに係る状況は、観光入込み客数が約1,741万人、宿泊客数が約68万人の見込み、観光消費額が3,307億円の見込みとなっており令和11年度の目標値(KGI)達成に向け順調に推移しています。

さて、委員の皆さまには、すべてのシートをご説明したいところですが、お時間も限られておりますので、本日は特筆すべき10個の取組について説明いたします。

その他の取組につきまして疑問点等ある場合には、質疑応答の際に、ご質問いただければと存じます。

それでは、施策推進シートの説明にうつりますので、恐れ入りますが、お手元の資料「第3次木更津市観光振興計画 施策推進シート」の5ページをご覧ください。

シートの説明は、まず、説明する取組と、その取組について特筆して説明する理由を述べた後、「3 主な取組み」「6 指標」「8 令和7年度の実績・課題」「9 令和8年度の活動予定」を順に説明してまいります。

4ページをご覧ください。

施策1「里山・里海の保全と活用」のうち、「④きさらづCAMP ORGANIC FIELD in みたての活用」をご説明します。

本取組は、観光まちづくりの司令塔である、きさらづDMOによる事業であり、令和8年度は、みたて海岸へ専任のアクティビティリーダーを配置する取組みも行いますので、説明するものです。

3 主な取組は、④きさらづCAMP ORGANIC FIELD in みたての活用、担当課は観光振興課となります。

6 指標は、足度向上測定のための体制構築で、実績は満足度向上測定のためのアンケート実施です。

8 令和7年度の実績・課題ですが、平日稼働率の向上を図るため、7月から営業体制の見直しを行い、段階的に営業日を拡大しました。

課題は、アンケート結果を基にした改善点の整理です。

9 令和8年度の活動予定は、アンケートを基に利用者満足度80%以上を目指して満足度向上に向けた改善を進めることに加え、令和8年度から、みたて海岸専任のアクティビティリーダーを配置する予定であり、更なる金田みたて海岸の活用を図るとしてまいります。

続いて、8ページをご覧ください。

施策(2)「農林水産業の活用」のうち「⑥-2グリーンツーリズムの推進」についてご説明します。

本取組は、観光農園を活用したグリーンツーリズムを進めることで、農業と観光の連携を図るものです。

現在、市内では民間による新たな観光農園整備も進められており、関心が高まっていることから、その取組について説明するものです。

3 主な取組は、⑥-2グリーンツーリズムの推進、担当課は観光振興課となります。

6 指標は、観光農園入園者数、令和7年度目標は6万5千人であり、実績は約7万8千人です。

8 令和7年度の実績・課題ですが、市公式SNSや千葉県観光物産協会が運営している「ちば観光ナビ」、民間のフリーペーパー等を活用した情報発信を行うとともに、イベントにおいてPRや体験企画を実施しました。

課題はイベントでPRする機会が少ないことです。

9 令和8年度の活動予定は、令和8年6月の木更津ナチュラルバル⁺でのPRに加え、開園時期にあわせたスタンプラリーの実施や、集客施設等でのPRイベントの機会拡大を検討するとしてまいります。

続いて19ページをご覧ください。

施策4「歴史・文化資源・芸術を活用したコンサート、アートイベントの実施」のうち、「⑩広域連携による観光誘客の推進」をご説明します。

本取組は、房総国際芸術祭 アート×ミックス2027が今年度の令和9年3月6日（土）から5月30日（日）まで開催を予定していることから、今年度の本取組が地域の魅力発信と観光誘客の促進にとって重要であるため説明するものです。

3 主な取組は、⑩広域連携による観光誘客の推進、担当課は観光振興課となります。

6 指標は、芸術祭開催に向けた準備及びプレイベント開催で、実績は、基本方針策定及び実施計画策定並びにプレイベント開催です。

8 令和7年度の実績・課題ですが、房総国際芸術祭実行委員会において、開催基本方針及び実施計画を策定しました。

また、関係者向けの取組や市によるPRを通じ、機運醸成を図りました。

課題は「自転車で作品を周るツアーの実施」のため、効果的な実行に向けた実行委員会への働きかけが課題となっています。

9 令和8年度の活動予定は、令和9年3月の芸術祭開催に向け、広報きさらづやSNS等を活用した周知を行います。

あわせて、「自転車で作品を周るツアー」の効果的な実行に向け、関係機関への働きかけを行います。

続いて22ページをご覧ください。

施策5「道の駅「木更津うまきたの里の活用」のうち、「⑱-1道の駅「木更津うまきたの里」の拡張整備」をご説明します。

本取組は、来場者の増加により顕在化している駐車場不足という課題に対応するため、道の駅「木更津うまきたの里」の拡張整備を着実に進める必要がありますが、事業に遅れがある状況ですので説明するものです。

3 主な取組は、⑱-1道の駅「木更津うまきたの里」の拡張整備、担当課は農林振興課となります。

6 指標は、令和7年度目標が駐車場の拡張であり、実績は、実施設計及び駐車場拡張整備に係る関係機関との協議を行ったものです。

8 令和7年度の実績・課題ですが、実施設計については、完了したものの、拡張整備工事に伴う関係機関との調整に不測の期間を要したことから、事業に遅れが生じ、令和7年度内の整備完了が困難な状況となり、令和8年度に繰越し、実施いたします。

駐車場が不足していることから、早期供用開始に向け取組む必要があります。

9 令和8年度の活動予定は、第2駐車場の拡張整備に取り組むとともに、施設の拡張整備に向け、庁内及び関係機関との調整を図ることとしています。

続いて28ページをご覧ください。

施策6「回遊性の向上」のうち、「㉔-2富士見通りの再整備」をご説明します。

本取組は、パークバイプロジェクトの一環として、木更津駅と港をつなぐ富士見通りにおいて、令和7年度に歩道再整備を行うとしておりましたが、一部工事を令和8年度に繰り越していることから説明するものです。

3 主な取組は、②-2 富士見通りの再整備、担当課は土木課となります。

6 指標は、令和7年度が歩道再整備であり、実績は歩道再整備工事の一部、及び道路照明設置工事を行いました。

8 令和7年度の実績・課題ですが、富士見通りの再整備については、関連するアーケード撤去工事等との工程調整を行いながら、歩道舗装、側溝布設及び道路照明の設置を実施しました。

課題は、令和7年度に繰り越しとなった工事について、工程調整を行いながら、ベンチ等の設置やカラー舗装を完了させる必要がある点です。

9 令和8年度の活動予定は、令和8年度に歩道再整備の完成を目指します。

街路樹、ベンチ、シェルター等の構造物の設置に加え、遮熱性を有するカラー舗装の整備を行う予定です。

続いて40ページをご覧ください。

施策10「サイクルツーリズムの推進」のうち、「③サイクルツーリズムの拡充」をご説明します。

本取組は、市の重点事業であること及びサイクルイベント参加者に減少がみられることから、令和8年度の取組について説明するものです。

3 主な取組は、③サイクルツーリズムの拡充、担当課は観光振興課となります。

6 指標 令和7年度は、ツール・ド・ちば等のサイクルイベント支援・実施及びサイクルラック等設置に係る補助制度検討であり、実績は、ツール・ド・ちばの実施となっています。

8 令和7年度の実績・課題ですが、市が開催した期間型サイクルイベント「サイクルボール」については、コース設定や参加促進施策である1dayイベントの開催時期を見直し参加者の増加を図りました。

また、イベント時に収集したアンケート結果を踏まえて、サイクルラック設置施策を自転車活用推進計画に位置付けました。

課題は、サイクルボールが全国展開のイベントであることから、新規参入した自治体のコースに人気が集まってしまふことや工事の影響等により参加者数が減少していることです。

9 令和8年度の活動予定は、今後、サイクルボールの内容見直しや代替事業の検討を行うとともに、サイクルラックの設置について、令和8年度策定予定の自転車活用推進計画に基づき関係者と協議を進めてまいります。

続いて41ページをご覧ください。

施策10 「サイクルツーリズムの推進」のうち、「④自転車活用推進計画の策定と推進」をご説明します。

本取組は、令和8年度に計画が策定される予定であり、自転車活用に向けた推進も始まることから説明するものです。

3 主な取組は、④自転車活用推進計画の策定と推進、担当課は土木課となります。

6 指標は、令和7年度が木更津自転車活用推進委員会の開催及び自転車活用推進計画策定であり、実績は、委員会を計3回実施、及び、計画策定は令和8年度に繰越となっております。

8 令和7年度の実績・課題ですが、自転車活用推進計画の策定に向け、アンケート調査や意見募集、関係機関へのヒアリングを行い、推進委員会で検討を行いました。

なお、事業として令和8年度に繰り越しております。

課題は、計画策定後の目標指標の確認と評価・改善を継続することです。

9 令和8年度の活動予定は、令和7年度に引き続き、委員会を開催し、計画策定を目指し、計画策定後は、自転車活用に向けた取組を推進します。

続いて43ページをご覧ください。

施策11 「みなとまち木更津の再生に向けた環境整備」のうち、「㉔吾妻公園文化芸術施設の整備」をご説明します。

本取組は、吾妻公園における文化芸術施設や民間活力を活用した魅力ある施設を整備する重要な取組ですが、実施設計に遅れがあること、また、民間集客施設整備の公募については、前倒しで開始していることから説明するものです。

3 主な取組は、㉔吾妻公園文化芸術施設の整備 担当課は地域政策室となります。

6 指標は、令和7年度目標が実施設計及び民間集客施設整備の公募準備であり、実績として、実施設計は工期を延長、公募については令和7年度中に募集を開始しています。

8 令和7年度の実績・課題ですが、文化芸術施設などの実施設計に取り組みましたが、関係機関との協議に不測の日数を要したことから、令和8年6月末まで工期を延長しております。

また、公園内の一部区画における民間集客施設整備に向けて、予定を前倒し、事業者募集を開始しました。

課題は、令和10年度中の供用開始に向け、全体工程を調整し、着実に事業を推進することです。

9 令和8年度の活動予定は、文化芸術施設について、既存施設の撤去を行った後、令和8年12月頃から建設工事に着手します。

また、公園内の一部区画における民間集客施設については、令和8年7月に事業者の選定を行った後、協定の締結・協議等の手続きを進めます。

続いて45ページをご覧ください。

施策12 「“オーガニックなまちづくり“の発信」のうち、「㉞-1 SNSを活用した多様な主体による視覚的な情報発信」をご説明します。

本取組は、「オーガニックなまちづくり」の発信において重要な役割を担う施策であり、近年高まるSNSの活用を踏まえ、プロモーション動画を制作するなど、新たな取り組みもあったことから、その内容を説明するものです。

3 主な取組は、㉞-1 SNSを活用した多様な主体による視覚的な情報発信、担当課はシティプロモーション課となります。

6 指標は、市公式SNSにおける年間投稿件数で、令和7年度目標は、発信件数60件であり、実績は71件です。

8 令和7年度の実績・課題ですが、イベント会場や商談会などで活用できる木更津市のイメージ動画および、観光をメインとするショート動画を制作しました。

また、市公式X等を活用してイベント情報などを積極的に発信し、継続的な情報発信により、本市の魅力を効果的に周知しております。

課題としてはフォロワーの属性に応じた発信内容や表現手法の最適化です。

9 令和8年度の活動予定は、制作したプロモーション動画を適宜活用し、本市の魅力を効果的に周知します。

あわせて、市公式X等については媒体特性に応じた内容とし、より多くの魅力ある情報を継続的に発信していきます。

続いて64ページをご覧ください。

施策16 「近隣市等との連携」のうち、「④広域連携による情報発信の強化」をご説明します。

本取組は、令和8年度に開催される房総国際芸術祭を見据え、広域連携による情報発信をこれまで以上に強化する必要があることから、重要な取組として位置付け、説明するものです。

3 主な取組は、④広域連携による情報発信の強化 担当課は観光振興課となります。

6 指標は、かずさ4市共有の情報発信プラットフォームであるX、及び、千葉内房ドライブマップの運用支援であり、実績は10件の発信を行っております。

8 令和7年度の実績・課題ですが、木更津港まつり大会や木更津トライアスロン大会など、10のイベントについて発信を行いました。

課題としては、広域連携イベントの発信が行えていないこと、及びフォロワーやサイト観覧数の増加に向けた取組などが挙げられます。

9 令和8年度の活動予定は、広域連携イベントである房総国際芸術祭について、各市と連携を図りながら積極的に発信いたします。

特筆すべき取組に係る説明は、以上となります。

只今ご説明しなかった取組につきましても、継続的に取組を推進することで、第3次木更津市観光振興計画にて定めているKPIの達成を目指してまいります。

議題(1)「第3次木更津市観光振興計画の令和7年度振り返り及び令和8年度事業計画について」の説明は、以上となります。

2) 質疑応答

○五十嵐委員長

説明が終わりました。

質問・意見等ありましたらお願いします。

○満間委員

本資料は非常に分かりやすく整理されており、皆さんが実際に取り組まれる中で、これをもとにランク付けを行い、どのように対応していくかという点について、すぐに実務で活用できるツールになっていくのではないかと感じています。

全体を拝見すると、いくつかのウィークポイントも見受けられます。

特に、プロモーションや情報発信といった、市が主体的に推進していく必要がある分野については、やや弱い傾向があるように感じました。

この点については、外部からの意見を積極的に取り入れながら、スキルの向上を図っていくことが重要ではないかと思えます。

また、評価がBやCとなっている項目については、もう一つの大きな要因として、他者への働きかけの難しさがあると考えます。

クルーズや航空関連の分野においても同様ですが、これらは自組織だけで解決できる問題ではないため、一定の難しさがあるのはやむを得ない部分です。

そのため、同じB評価であっても、自ら対応可能な領域と他者との協議が必要な領域とでは、難易度が大きく異なると認識しています。

ここからは質問になりますが、2ページに記載されている「クロモジ」に関してです。

些細な点で恐縮ですが、以前、クロモジを活用した商品開発を検討した際、生産量の少なさが課題となり、断念した経緯があります。

この点について、今後、生産量を増やすための方策などを検討されているか、お考えがあれば伺いたいです。

実は現在、来年1月に自社でワッフル製造機の導入を予定しています。

萩の月や東京バナナを製造している菓子メーカーの関連装置で、これを活用し、「三日月」というブランドで木更津をPRできる商品開発を考えています。

その中で、クロモジの粉末を活用し、生地に練り込むような商品化を検討しています。

したがって、クロモジの生産状況や課題、進捗などについて情報をご共有いただけると大変ありがたいです。

○事務局

クロモジの生産についてですが、現在、食品分野におけるお茶の活用といった取組については、主にDMOが主体となって進めている事業です。

生産体制については、専用の機械等による大量生産ではなく、個々に手作業で行われている状況です。

そのため、生産体制が十分に整っておらず、安定した供給体制に課題があると認識しています。

また、食品への練り込みといった活用については、現段階では未知の部分も多く、今後検討していく必要がある分野です。

ただし、木更津の新たな土産品開発という観点では非常に関連性の高いテーマであることから、いただいたご意見も踏まえつつ、DMOと協議し、関係者との連携を図りながら、必要に応じて橋渡し等も行っていければと考えております。

○葛委員

先ほどクロモジの話題が出ましたので、補足させていただきます。

本年2月に、かずさアカデミアパークにおいて開催いたしましたMICEショーケースの中で、クロモジをご紹介させていただきました。

これが非常に好評でございまして、用意しておりましたお茶の配布分が早い段階でなくなってしまい、さらにご希望されるお客様が多くいらっしゃるほどでございました。

残念ながら十分な量をご用意できなかった点は課題として残りましたが、それだけ関心の高さを実感したところでございます。

こうした反応を踏まえますと、例えば三日月様におかれまして、木更津の魅力の一つとしてクロモジを打ち出していくということは、「木更津ブランド」の形成という観点からも大変有意義ではないかと感じております。

以上、簡単ではございますが補足としてお話しさせていただきました。

○阿部委員

私の立場として、お話しさせていただきます。

現在、自転車活用推進委員として、市民公募の一員として関わらせていただいているほか、他の分野についても幅広く関与しているため、どうしても総論的な話になってしまうかもしれませんが、ご質問とあわせていくつかご提案もさせていただければと思います。

1点目ですが、資料の上段にあるDMOによる「アクティビティリーダー」についてです。

この方のバックグラウンドやご経歴について、どのような人材を想定されているのかお伺いしたいです。

というのも、現在進められている観光政策や、今年3月からスタートした国の第5次観光推進基本計画を見ても、「アドベンチャーツーリズム」という考え方が重要視されてきています。

ハードなイメージだけではなく、いわゆる“ソフトアドベンチャー”のようなものも含め、今後のインバウンド誘致の軸になっていくのではないかと感じております。

そういった観点から、必ずしも専門家である必要はないものの、一定程度その分野に触れている方が担うことが望ましいのではないかと、という期待も含めた質問です。

2点目です。資料の19ページにある「広域連携による観光誘客（房総国際芸術祭）」の部分に関連し、サイクルツーリズムの展開についてです。

このサイクルツーリズムのターゲットについて、実際に自転車を持ち込む本格的なサイクリストを想定しているのか、それともレンタサイクルを利用する一般観光客を主な対象としているのかによって、施策の方向性や戦略も大きく変わると考えています。

この点についての考え方があれば、ぜひお聞かせいただきたいです。

3点目です。45ページにあるSNS活用についてですが、アカウント整備に加え、周知方法が非常に重要になると感じています。

例えばイベント等の場において、SNSをフォローしていただいた方に対して抽選やプレゼントを行うといったキャンペーンを実施することで、認知向上につながるのではないのでしょうか。

特に市内向けだけでなく、旅行者向けやMICE関連の出展機会などにおいて、InstagramやX（旧Twitter）などを活用したフォローキャンペーンを展開することで、より効果的な情報発信につながる可能性があると考えています。

この点について、何か具体的なイメージや検討状況があれば、お聞かせいただければと思います。

長くなってしまい申し訳ありませんが、以上3点について、ご質問とご提案としてお伝えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

1点目、アクティビティリーダーのバックグラウンドについてですが、現時点で詳細までは把握しておりませんが、新たに雇用した方については、他の観光協会に所属していた経験を有するなど、一定の知識や実務経験のある人材を採用していると聞いております。

ただし、具体的な経歴や専門性の詳細については、現時点では十分に確認できておらず、この点についてはご説明が行き届かず申し訳ありません。

2点目の、自転車とアートを掛け合わせた施策についてですが、現在、事務局において取組を進めている段階であり、まだ土台となる基礎的な部分を整理しているところです。

現時点では、想定として、サイクリストだけでなく、一般の観光客も対象とした施策を展開していきたいと考えていると聞いております。

実際に、レンタサイクルを活用している木更津市や大多喜町にも声掛けをしているとの情報もあり、一般利用者を含めた取組になる可能性が高いと考えています。

ただし、現段階ではあくまで構想段階であり、いわば「予定の段階」の内容ではございます。一方で、コース設定については山間部も含まれることから、難易度の高いルートになることが想定されます。

そのため、本格的なサイクリストにとって魅力的なコースづくりと、一般の方でも楽しめる施策の両立を図っていく方向で検討を進めていきたいと考えております。

最後に3点目の SNS 活用についてですが、本件はシティプロモーション担当課が所管となっております。

今回いただいたフォローキャンペーン等のアイデアについては、担当課へ共有し、庁内での協議を進める中で、実現の可能性を検討していきたいと考えております。

○沼野委員

富士見通りの再整備につきましては、資料の中で、誘客の推進や回遊性の向上といった観点から位置付けられていることを確認しております。

また、一部工事が令和8年度へ繰り越される旨の記載も拝見いたしました。

そのような状況の中で、今年度は11月にアクアラインマラソンが開催されるほか、年度末には近隣市町との連携による国際芸術祭の開始も予定されています。

現在、富士見通り周辺では工事が進められておりますが、この期間においても観光誘客や回遊性の向上に資するような取組、あるいは仕掛けについて、何か検討されていることがありましたらお伺いしたいと存じます。

また、吾妻公園に整備される文化芸術施設につきましても、今後の活用が見込まれる中で、同エリアとの連動による施策の可能性について、お考えがあればあわせてお聞かせいただければ幸いです。

あわせて、バス事業者の立場から補足させていただきます。

自衛隊の航空祭など、大規模イベントの際には、多くの来場者に対応するため、輸送手段の確保について突発的なご依頼をいただくことが多く、従来は運転手不足の中で対応に苦慮してまいりました。

一方で、現在は他事業の状況により、比較的運転手に余力がある状況となっております。

そのため、一定期間先を見据えた輸送計画の検討にも対応可能な体制でございます。

実際に、弊社では国際芸術祭を見据え、観光用途に対応したマイクロバスの導入も検討しており、狭隘路での運行や輸送ニーズへの対応に向けた準備を進めているところです。

なお、車両の納車時期については不透明な部分もございます。

こうした状況も踏まえ、富士見通りおよび周辺エリアにおける今後の方向性、特に観光との連動を意識した活用について、お考えをお聞かせいただけますと幸いです。

○事務局

観光誘客の取組として、イベント実施に関しては、いわゆる「ほこみち制度（歩行者利便増進道路制度）」の活用を想定していると聞いております。

この制度を活用することで、イベントを実施できる場所がいくつか設けられる予定であり、ここでは市民や民間事業者が主体となるイベントに加え、木更津市が主導するイベントについても開催していく方向で検討されているとのことです。

また、主管課においては、こうした活用に関する協議会も設置されておりますので、今後はその中で、具体的な運用や活用方法について検討を進めていくことになると考えております。

引き続き、庁内での連携を図りながら、活用の具体化を進めていければと考えております。

○満間委員

情報共有と前向きな提案として聞いていただければと思います。

ホテル三日月には、テレビロケがかなり入っております。もちろん、ホテル三日月を場所として活用いただくものも多いのですが、木更津をテーマにさせていただく番組もあります。このような場合は、当社からも市へ情報共有して参りますので、是非連携していただき「見せにいく」準備を整え、最大の露出効果を取れればと考えてます。

○阿部委員

39ページの「スポーツツーリズムの推進」に関連して、情報共有と今後の展開についてお話しさせていただきます。

私は現在、スポーツ振興課とも関わりを持ちながら、木更津市の陸上競技協会の事務局にも携わっております。

その立場からの内容となりますが、ツーリズムの観点でも展開できるのではないかと考えております。

まず、江川総合運動場についてですが、全天候型のトラックが整備されたことで、非常に使い勝手の良い施設となっております。

今年度からは、部活動の地域移行の動きも見据えながら、中学校・高校の陸上関係者が連携して取り組んでいく動きも進んでおります。

その中で、高校の指導者の方から、夏休み期間中の合宿先として、木更津での利用を検討したいという相談を受けました。

平日の利用を前提としたものですが、競技場の活用について関心が寄せられている状況です。

この件については、スポーツ振興課へお繋ぎしているところですが、今後ニーズが顕在化してくる可能性があると感じています。

また、実際に現地を見ますと、冬場などには全国高校駅伝に出場するような強豪校が合宿で訪れ、練習を行っている様子も確認しています。

陸上に限らず、サッカーなどでも強豪校が利用しているケースがあるのではないかと考えられます。

このように、木更津は温暖な気候であり、海に近く、東京からのアクセスも良いという立地条件に加え、一定水準の競技施設を比較的に利用しやすいという点で、大きな強みを持っていると感じています。

特に江川総合運動場は、規模や設備の面から見ても、スポーツ合宿の受け入れにおいて高いポテンシャルを有している施設です。

そのため、39ページで示されている内容は施設整備にとどまらず、合宿誘致といった観点からも、いわゆる「外から人を呼び込む」スポーツツーリズムの施策として発展させていく余地があるのではないかと考えています。

こうした取組は、スポーツ振興課との連携が不可欠になるかと思いますが、うまく展開できれば、宿泊や地域経済への波及効果も期待できます。

例えば、宿泊先として民間事業者との連携を図ることで、地域全体での受け入れ体制構築にもつながるのではないかと考えております。

以上、情報提供とあわせてのご提案として発言させていただきました。

○田上委員

本日は大変有意義な委員会であり、さまざまな前向きなご意見が出されていると感じております。

その中で、2点ほどお伺いしたいことがございます。

1点目ですが、今回ご報告いただいた10項目の中で、全体52件の施策のうち、年度評価がCとなっている項目が2点ほど見受けられます。

これらについては、実績がなかったことによる評価と理解しておりますが、今後の対応や改善に向けた取組の方向性について、現時点でお考えがございましたらお聞かせいただければと思います。

2点目は、グリーンツーリズムの推進についてです。

資料では、令和7年度の実績として、目標6万5,000人に対し、7万8,311人と目標を上回る成果が示されており、既に令和10年度の目標に近い水準となっている点が非常に印象的でした。

こうした状況を踏まえ、今後の目標値の上方修正の可能性や、さらなる発展に向けた取組の方向性について、もし検討されていることがございましたら、ぜひお聞かせいただきたいと存じます。

以上、2点についてよろしくお願いたします。

○事務局

1点目、C評価の項目についてですが、例えば7ページの施策推進シートにある「グリーンツーリズム推進」において、農林振興課が実施している農泊に関する取組が該当いたします。

こちらについては、参加者の募集は行っておりましたが申し込みがなく、最終的な実施には至らなかったという事情がございます。

そのため、今回の評価としてはCとさせていただきます。

ただし、こうした課題を踏まえ、今後についてはDMOの知見、特に旅行分野におけるノウハウを活用しながら、今年度は実施に向けて取り組んでいく方針であると担当課から聞いております。

今回、C評価としている項目については、単に評価にとどめるのではなく、課題のある分野として重点的に手を入れ、担当課において改めて実施計画を整理した上で、引き続き取組を進めていく予定です。

今後の進捗については、来年度になる可能性もございますが、改めて委員会の場でご報告できればと考えております。

2点目、計画の修正についてですが、本計画は令和7年度からスタートし本委員会で初めての振り返りとなります。

今回の実績値については、現時点では十分な分析が行いきれていない部分もございます。

そのため、今回の結果が一時的なものなのか、あるいは継続的な成果なのかについては、引き続き見極めていく必要があると認識しております。

その上で、今後もKGIやKPIを早期に達成するような状況が続き、「さらに高い目標設定をすべきではないか」といったご意見をいただくようであれば、第3次木更津市観光振興計画の推進期間であっても、目標値の見直しや計画の修正について検討していく必要があると考えております。

引き続き、皆様からのご意見をいただきながら、より実態に即した計画となるよう見直しを進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

○葛委員

MICEに関して申し上げます。

36ページに記載の内容についてですが、木更津市における国際会議等の開催件数を増やしていくためには、アクセスの問題と補助制度の整備が特に重要なポイントであると感じております。

これらを踏まえ、財源の確保も含めて十分にご検討いただき、目標件数の達成に向けて、関連制度については積極的かつ前倒しで整備を進めていただくと大変ありがたいと考えております。

2点目ですが、先日実施されたショーケースを通じて気づいた点を共有させていただきます。

これまであまり意識していなかったのですが、駅を利用する中で、改札を出た後の案内表示、特に目的地への誘導サインがやや分かりにくいと感じました。

今回はバスでの移動が中心であったことや、事前に案内が行われていたこともあり、実際に駅を利用された方は比較的少なかったかと思いますが、最近私自身も木更津駅を利用する機会が増える中で、同様の印象を持っております。

来訪者が迷わず目的地に向かえるよう、案内表示の分かりやすさについて、今一度ご検討いただけますとありがたいです。

特に、初めて訪れる方の視点に立ったサイン計画の充実をご検討いただければ幸いです。

(4) まとめ

○五十嵐委員長

本日は令和7年度の振り返りという位置づけでの議論となりました。

先ほど田上委員からのご指摘に対する事務局からの説明にもありましたとおり、1年間の実績だけでは評価しきれない部分があることから、今後しっかりと分析していくことが重要であると認識しております。

一方で、現在は生成AIの急速な進化などに象徴されるように、社会環境が非常に速いスピードで変化しております。

そのため、策定された計画をそのまま遂行するのではなく、時代やニーズに即しているか、また将来につながるものとなっているかといった視点で、適宜見直しや改善を行っていく姿勢が重要であると考えます。

必要に応じて、計画の修正や新たな取組の追加についても、積極的に検討していただきたいと思っております。

参考までに、私自身、本日こちらに来るまでの間、電車で約2時間移動する中で、仮に「首都圏から日帰りで木更津を訪れる場合、どのような動機で来訪するのか」という点について、生成AI等を用いて調べてみました。

すると、従来のようにSNSの発信内容を見るというよりも、「限られた時間の中で何ができるか」「どのような体験ができるか」といった“時間軸”や“体験価値”を重視する傾向が強くなっていることが分かりました。

例えば、「海辺の景色を楽しめる」「昼食に特色あるグルメがある」といった情報が、結果として木更津という地域に結びつく形であれば来訪につながる、という考え方です。

現在では、ChatGPTのような生成AIを活用して情報収集や比較検討を行うことが一般的になりつつあり、「どの場所か」以上に、「どのような体験ができるか」「どのような風景や時間を過ごせるか」といった“ストーリー性”や“時間の過ごし方”が重要視されていると感じました。

こうした観点からも、SNS活用については単純なフォロワー数の増加にとどまらず、「どのような人が、どのような動機で木更津を訪れるのか」という点を意識した情報発信へと深化させていくことが重要ではないかと考えます。

DMOとも連携しながら、ターゲットや訴求内容をより明確にした取組が進められることを期待しております。

次回の委員会においては、「新たにこうした施策を追加した」「目標設定を見直した」といった前向きな提案も共有いただけると、より実りある議論につながるのではないかと感じております。

本日は、皆様から非常に積極的かつ前向きなご意見をいただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の委員会の議論を終了とさせていただきます。

これにて議長の役目を終えさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

五十嵐委員長、議事進行ありがとうございました。

6. 閉会

○事務局

以上をもちまして、令和8年度第1回木更津市観光振興計画推進委員会を終了といたします。
ありがとうございました。

令和8年度第1回木更津市観光振興計画推進委員会の内容について、上記のとおり確認します。

令和8年6月22日

木更津市観光振興計画推進委員長 五十嵐 潤子